



図書館だより

11月21日から
30日まで休館

市立図書館は、開館して満二年となり、本の数は一万二千冊ほどになりました。そこで、十一月二十一日から三十日までの期間を「ばく書期間」とし、図書点検、整理、カード類の整備を行いますので、利用者みなさんのご協力を願います。なお、期間中の図書の返却は、返却ポストへどうぞ。

休館十一月二十一日～三十日

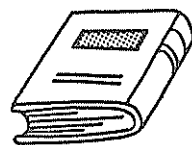
ご寄贈

感謝します

貴重な図書等をいただきありがとうございます。さっそく市民の利用に役立てたいと考えています。(敬称略)

◇鳥村辰彦(大地) ◇藤島利之助(井枝) ◇西岡律子(立田) ◇西田博男(園分) ◇南國青年会議所◇森尾晃一(東崎) ◇田中滝治(西山)

《新刊案内》



▽神様のセールスマン(根津真介) △おんな大蘭記(橋田寿賀子) △ダイヤモンドは傷つかない(三石由起子) △わたくしの末七人宣言(塩月弥栄子) △さかしまに(五木寛之) △花祭(平岩弓枝) △炎のなかの休暇(吉村昭) △老いたるシンデレラ(阿部光子) △香りを愛する人(高賀富士子) △村へ(北井一夫) △土佐人(高知新聞社) △活躍成就(市原麟一郎) △本日も晴天なり(小山内美江子) △韓国の石仏(金剛基) △花嫁のアメリカ(江成常夫)

〔南國市立図書館〕

何年ぶりで保育園の運動会を見せてもらった。ここでは一歳から五歳児まで保育しているという。最初に見たのは一歳児から五歳児までのリレーで、年少児は、父兄の方へ顔を向け、笑いながらヨチヨチ歩きといった走り方である。

手で、子供を抱いて走るもの、手をつないでヨチヨチ歩くもの、途中でしゃがんでしまう子供……。子供より先にキャラメルの場所に着いた親の中には、子供に取らせずに自分が二、三個取って、ずっと横から姿を消す人もいた。

人間の脳細胞は百五十億ほどあるといわれ、その八割が五、六歳までに出来あがり、生涯変ることがない。そのためには、子供の嫌を二、三歳ころから始めなくてはならないと言われることもうなずける。

なければ、どんなことをしてもよいという考えが、現代の教育ママを育てるのではありませんか。キャラメルを一個でも多く取って、くるという母親の気持が、将来の子供心にどうひびくのだろう。教育の原点をみた気がした。『先生と親とが嫌のなすりあい』ともいわれるいまの教育のなかで、『親の姿が子に映り』という言葉をよくかみしめてもらいたいと思いつながら、子供たちの元気で立派に成長することを願って帰ってきた。

山本尚一(後免町)

キャラメルが教えるひじょうま

四、五歳児ともなれば緊張の面持ちで走るのも早く、幼児の成長のすばらしさに驚かされる。

手を取りあつて子供に一個のキャラメルを持たせて、ゆっくり元の位置に帰る親子もいた。

ある婦人会で、お母さん方に「あなたのお子さんに、将来どんな人になつてもらいたいですか。」とたずねると、ほとんどのお母さんは「人に迷惑をかけない人間に」との返事。私が「一人のお役に立つ人間にと望まれませんか。」と「そうですな」とうなずかれた。

一つ考えさせられる競技があった。キャラメルを並べておき、親と子が走って行って、取り合う競技である。「一人一個ですよ。」と園長がマイクで呼びかける。スタートをきったが、走り方もマチマ

真な子供心に反して、人より少しでも余計に取ってやろうとする母親の姿を見るとき、教育ママの心根がこんなところから芽生えるのではないかと感じた。

極端であるが、人に迷惑をかけ

国民健康保険税 (3期分)

納期限は
11月30日(月)です